JA大潟村

JAだよりおおがた

# Ogata 1

No.582 JANUARY

本年もよろしくお願いします。

今月の表紙

## フレッシュミズ料理講習会

2021年（令和３年）12月７日

「甘酒を使った料理～講師は君だ♡の会～」と題して、レシピを執行部で考え、参加者全員がそれぞれアドバイスしながら、餃子の皮キッシュ、甘酒レアチーズ、甘酒とお豆のポタージュ、甘酒ポークジンジャーを楽しく作りました。

新春特集 女性部・青年部・フレッシュミズ「新年に思うこと」 04

もくじ

02 年頭にあたって（組合長あいさつ）
06 営農だより（水稲の生育状況と作柄を振り返る）
09 フレミズ40周年企画 励ましの詩画家 佐々木ひでお口筆魂展
10 あぐりプラザ情報
11 女性部活動だより
12 コメ記者熊野のコラム
13 頭の体操・自営口座移行掲示板・職員人事
14 初めてのお誕生日・フレミズだより・青年部活動報告と予定

SDGs

JAグループ秋田キャッチフレーズ

いいねをいっぱい届けたい

# 年頭にあたって 2022

代表理事組合長　小　林　　肇

組合員のみなさまとご家族、地域の皆様に、謹んで新年のおよろこびを申し上げます。また、日頃よりＪＡ事業につきましてご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

## 一年を振り返る

昨年は、県南地方の大雪で育苗ハウス倒壊や果樹の枝折れによる大被害が発生しました。育苗ハウス再建には間に合いませんでしたが、プール育苗などで対応し春の田植えに間に合わせたようです。しかし、果樹農家の被害は甚大で離農する果樹農家も多数出て、50ha程の果樹園が廃業をするなど大きな問題となっています。

春先の農作業は比較的天候に恵まれ順調に推移しましたが、7月中旬からは30度を超え酷暑が続くなど、農作物への影響が懸念されました。その影響で収穫時期が早まったほか、一部高温障害とみられる症状が出るなどしました。

新型コロナウイルスの影響は収まらず、1月、5月、8月と新規感染者数がピークを迎え経済も停滞しました。そのため、外食産業向けのコメ需要が伸び悩み、6月末在庫が積みあがった結果、全農あきたからＪＡへの概算金が１０，６００円となるなど、コメ農家に大きな影響が出る結果となりました。昨年からコメ需給環境の悪化の兆しが見えていたため、多くの組合員が主食用米から加工用米への作付け変更を行い、大潟村地域農業再生協議会が水田リノベーション事業に申請し採択された結果、主食用米価格下落をカバーすることができました。

しかし、全国的なコメ余りは続き、主食用米作付けを減らしている中、全国作況指数は「１０１」となりました。北海道で「１０８」、東北地方で「１０２」のやや良となりましたが、北陸「97」、東海「98」となり、夏場の日照不足の影響が出たようです。政府も米穀周年供給・需要拡大支援事業を利用して過剰米を先送りしていますが、コロナの影響が収束するまで過剰感が収まりそうもありません。

秋田県では作況指数が「１０２」となり、大潟村も「１０１」となりました。昨年から大潟村でも作付けを開始した新品種サキホコレは順調に生育し、極良食味米の力を発揮し、新米販売では完売するなど大きな人気となっています。今年から本格的な栽培となることから、しっかりとした販売戦略のもと秋田米ブランド向上のけん引役となれるよう願っています。

## 米以外の状況

大豆については、播種期に降雨がなく発芽にばらつきが目立ち、初期生育は緩慢でしたが、着莢期以降は順調に推移しました。収穫期の天候が悪く、品質や収量への影響が心配されましたが大きな病害虫の発生もなく大粒傾向で平年より高い収量となりました。

小麦については、越冬前の茎数は少なかったものの、雪融けが早かったため春先の生育回復も早くなりました。収穫期の天候もよく、適切な肥培管理のおかげもあり、収量は平年に比べ高いものとなりました。県内スーパーでは大潟村産小麦を使用した食パンやコッペパンの取り扱いが増え、村産小麦の知名度アップに一役買っています。

かぼちゃについては、開花期後、梅雨時期の雨が少なかったため、２番果が玉落ちし、減収すると予想されたものの、３番果以降順調に生育し、結果的には豊作となりました。販売面に関して、市況は関東産が長引き、北海道産の出荷が早まったため例年にないくらい安値で取引されていたものの、近年は市況に左右されることなく計画的に販売することができ、かぼちゃの販売金額は１９９６年以来久しぶりに５千万円を超えることができました。

たまねぎについては、育苗時期にあたる9月、10月の気温が平年よりやや高く推移した事で生育は安定し、定植後の活着もスムーズでしたが、越冬期間中の暴風雨雪の影響により、草丈が低く欠株が多い年明けとなりました。生育期間中は目立っ

た病害は無く、草丈も回復しましたが5月の大雨や6月のひょうにより一部葉枯れ症状や葉痛みが見られましたが収量は前年を上回りました。販売面では水田リノベーション事業に申請し、価格の安定を図りました。

## 大潟村農協創立50周年記念式典

一昨年度50周年記念式典を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を鑑み、一年遅らせて昨年11月の開催となりました。本来であれば組合員全員で乾杯しながらお祝いしたかったのですが、会場の収容人数の制約もあり、記念式典・記念講演のみの開催とし、祝賀会はやむなく取りやめとさせていただきました。それでも多くの組合員や元役員、元職員などが参集し、大きな節目の式典を無事終えることができました。

記念講演では元農林水産事務次官の奥原正明さんから講演をいただき、戦後、時代の変化の中で農業基本法がどのような経緯で変化を遂げたのか、また、新基本法の中に方向性が示されており、基本法を踏まえた農政の基本方向をよく理解しておくことが重要だと話されました。まとめでは、大潟村農業を発展させるために、地域外への進出や生産コストの削減、付加価値向上、販路拡大などの体制整備が必要だと示していただきました。今後とも、日本の食糧基地として機能できるように頑張っていきたいと思います。

## 県1JA構想について

昨年、県1JA構想についての説明会や組合員の意向調査を行った結果、3月に組織再編協議会からの離脱を表明しました。設立以来合併を経験したことのないJAとして、県1JAになることが組合員へのメリットとなるのかどうかという観点から情報収集してきましたが、メリットよりもデメリットの方が上回ること、同時に10か年計画を策定しても単独JAとして経営の見込みが立つ事などから早期に離脱することにしました。

昨年11月に行われた第31回秋田県JA大会では、「農業と地域社会の持続力向上」をテーマとし、JAグループ秋田が一丸となって足下の厳しい情勢を乗り越え、農業や地域を支える多様な関係者との連携を強化しながら、これまでの経験や価値観にこだわらず、持続可能性を広げるために挑み続けることとしました。その中において、事業提供の継続性を確保する手段として、これからも「県1JAを目指す組織再編」の実現に取り組むこととしています。

JA大潟村では、中期経営計画を策定し組合員の所得向上に向けてさらなる努力をしてまいります。さらに、JA域を越えた利用事業の検討をはじめ、事業連携や施設利用率向上を目指してまいります。

## 次世代対策として

大潟村は後継者に恵まれてきましたが、離農者が少ないことで耕作面積の拡大が困難な地域となっています。平均耕作面積も18haほどとなっていますが、いまだ15haの組合員が4割を占めているなど、米価の低迷により所得も下降気味になってきています。

数年前から高収益作物としてたまねぎ栽培がスタートし、試行錯誤をしながらもコメの倍の所得が期待できる作物となりました。今後は、家族構成も考慮しながらどのような経営が合っているのか、組合員と相談を重ねながら進めてまいります。

他地域では15haの水田面積は小さな経営となり、50ha～100ha規模の担い手も出てきています。家族労働を基本としながらも法人経営に移行し規模拡大や作業受託を進める方策もあります。JAの仕事は相談業務であり、組合員の家族を巻き込んだ経営相談を強化してまいります。大潟村にはまだまだ若い後継者が多数いるといったメリットがあります。今からJA職員と相談を重ね10年後の経営を見据えた計画づくりをしてみませんか。全力で応援させていただきます。


謹んで新年のお慶びを申し上げます

| | |
|---|---|
| 代表理事組合長 | 小林　肇 |
| 専務理事 | 桑原秀夫 |
| 常務理事（学識経験役員） | 高橋勇輝 |
| 理事 | 深井源八郎 |
| 理事 | 谷口良一 |
| 理事 | 中島達也 |
| 理事 | 橋本考由 |
| 理事 | 佐野　潤 |
| 代表監事 | 松井　仁 |
| 監事 | 吉原　忍 |
| 常勤監事（員外監事） | 渡部　誠 |

外職員一同

新春特集

# 「新年に思うこと」

JAと深いつながりを持つ女性部長・青年部長・フレッシュミズ執行部代表より、今年の展望など「新年に思うこと」を、それぞれ語っていただきました。

## 女性部

### 地域と共に

部長
宮川　清子さん

あけましておめでとうございます。

日頃より女性部の活動にご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

また、昨年はJA設立50周年を一緒にお祝いする機会をいただきありがとうございました。半世紀を過ぎ様々な歴史を刻んで、現在があるということに改めて感慨をおぼえました。

女性部では、まだ収まる気配のないコロナ禍でも、できるだけ楽しい時間を過ごしたいと、感染対策を考えながら活動を続けています。フレッシュミズとの合同研修、移動研修、軽スポー

## 青年部

### 今年度を振り返って

部長
藤田　裕さん

新年あけましておめでとうございます。

日頃より青年部活動にご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

青年部は今年で創部47年目になり、39名の部員で活動しています。

今年度も新型コロナの影響でイベントの中止等ありましたが、できる範囲の中で活動してきました。

学習活動では、5月のハウス巡回で一緒に勉強したいとフレッシュミズより要望があり合同で行いました。ハウス管理を女性が担当してい

## フレッシュミズ

### 笑顔あふれる活動を

執行部
松澤　美佳さん

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃よりフレッシュミズの活動にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

今年度も昨年度に続き新型コロナウイルスの影響はありましたが、感染対策をしながら活動出来ないものか役員で考え運営しました。

6月に女性部の方々と大潟富士・経緯度交会点周辺のサルビア植えを行いました。例年であれば交流会と移動研修をしていますが、7月に移動研修のみ行いました。なまはげ館、男鹿真山伝承館でなまはげ実演を目の前で体験し、男

# 新春特集「新年に思うこと」

ツ大会、女性部研修。和やかな時間を過ごすことができました。

また、ゆずり葉による「地域の茶の間」、エコレク部の不用衣料回収、加工部の委託味噌作り。これら、今では村の中に定着した活動も、実施方法を変えながらも続けています。

他には、食育活動も行っています。小学校からの要請を受けて、例年の豆腐作りに加え、カボチャ料理作りのサポートを行いました。それぞれ活動グループを立ち上げ、授業のお手伝いをします。作業手順を組み立て、予行練習をして授業に臨みます。子供たちの満足そうな顔が見られるのは楽しいことです。

今年度は、新たに学校給食に手作り味噌を納入する事にも挑戦しています。昨冬に加工センターで仕込んだ味噌を小分けして納入しています。いずれ、あぐりプラザで販売することを目標に、この冬は仕込み量を少し増やすことにしています。

これからも女性部は、ＪＡはもちろん、広く地域と共に歩んでいきたいと思っております。引き続き皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

新しい年に彩りが戻りますことを願っております。

る農家さんも多い為、フレッシュミズの皆さんも真剣に営農指導員の説明を聞き、分からない事や疑問に思った事を質問していただきました。今後も一緒に行ってみたいと思います。

また、新たな取り組みや事業はなかったのですが、6月と7月に圃場巡回を行い、営農指導員に今の状況と今後の管理等を指導していただきました。部員の圃場を見て回る事によって得られる栽培技術や圃場管理などの情報はとても重要で、特に参加率の高い活動の一つです。

交流活動では今年度も村民野球選手権大会に出場しました。部員には野球経験者も多く、スポーツを通しての親睦も大事な活動です。新たに村民駅伝大会にも青年部チームとして出場したら面白いと思い、密かに考えていましたが、大会中止となり実現できませんでした。

令和3年は米の消費量低下に加え、新型コロナの影響で更に米余りに拍車が掛かり、米価が大幅に下落した年でした。国や県、村も高収益作物との複合経営を推奨しています。青年部でも畑作班を筆頭に玉葱、南瓜を栽培し今年で7年目になりました。収量は年々増加しています。

このように様々な活動を通して、仲間たちと日々、切磋琢磨しながら、楽しく学べる環境が青年部の良いところです。少しでも興味のある方は気軽にお声かけ下さい。

本年も地域に貢献できるよう一層努力して参りますので、今後とも皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

鹿温泉交流会館ではなまはげ壁掛けを作り、まさになまはげ一色の研修でした。

11月には座談会を開催し、ＪＡ役職員と意見交換しました。また、同日は保健センター主催で『スタジオ・きら』の野口典子氏をお招きして『色の効果とパーソナルカラー』について学ぶ教養講座に参加しました。

11月末に女性部とのスポーツ交流会があり、昨年度に引き続きボッチャを楽しみました。

12月には『講師は君だ』と題し、講師を呼ばず役員でレシピを考え甘酒を使用した料理講習会を開催するなど、様々な活動を楽しむことが出来ました。

今年度、若妻部を経てフレッシュミズは創立40周年という記念の年を迎えました。役員6名で実行委員と記念誌作成を兼ねており大変ではありますが、役員で協力し合い2月10日に記念式典と祝賀会を行うことになりました。

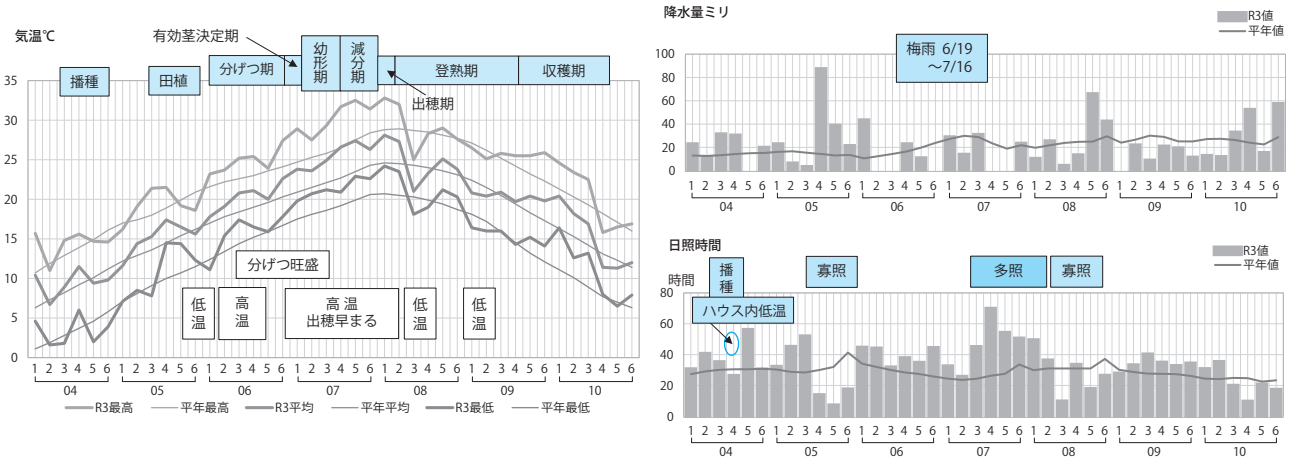
年々会員が減少していますが、役員で相談しながら少ない人数でいかに楽しく、また村に貢献できるかを考えながら活動しています。同世代の女性が住区や子供のつながりを超えて交流することができる場です。活動を通し視野も広がり、生活をより豊かにしてくれる大切な場所でもあると思います。

これからもフレッシュミズとして会員が笑顔で楽しみながら地域貢献できるように一層努力してまいります。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

# ～令和３年度　水稲の生育状況と作柄を振り返る～

令和３年大潟村産米は、全体の平均単収653kg、作況指数は101の「平年並み」となりました。
生育状況と作柄について、気象経過や坪刈などのデータをもとにまとめましたので、来年度の参考にしてください。

## １　気象経過【秋田県農業気象システムデータ】




## ２　生育概況（あきたこまち）

### （１）育苗期

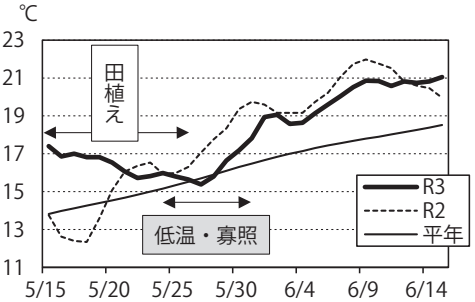
本年は４月15日頃より播種作業が始まったが、播種後に曇天が続きハウス内温度が上がらず早めに播種を行ったハウス等では出芽揃いに時間を要した。出芽後は低温気味であったものの、日照時間が多かったためハウス内の温度が上がり生育は平年並みに推移していたが、５月に入って気温が上昇してからは生育が早まり、育苗後半に高温日が続いたことから田植えの予定を早めた方も目立った。

### （２）田植え～生育初期

５月15日前後から田植えが開始され、田植期間中は概ね安定していたが、田植後に低温と寡照が続き、活着の遅れがやや目立った。また、この期間の強風により風下に表層剥離が集積し、苗立ちの遅れや補植を必要とした圃場も目立った。

１回目（６月８日）の生育調査では、「あきたこまち」の草丈が平年比100％、葉齢が同比＋0.1葉とこれらの生育は平年並みであったが、㎡茎数は同比96％で、３号１次分げつの発生は圃場によって差が見られ、他品種においても同様の傾向であった。

図－1 田植えから５日間の移動平均気温



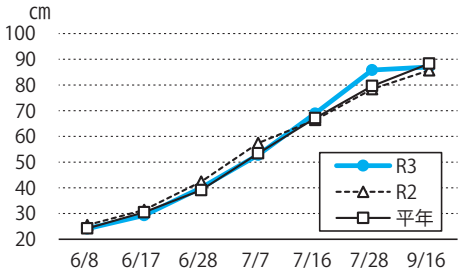

### （３）分げつ期

３号１次分げつの発生ムラの要因としては、田植え以降５月下旬から６月上旬までの低温・寡照の影響と思われる。加えて４月の降水量が多く、土壌窒素の発現も少なかったと予想される。２回目（６月17日）の調査でも草丈29.3㎝（平年比96％）、葉数7.2葉（同＋0.1葉）、ＳＰＡＤ値40.2（同98％）、茎数182本/㎡（同96％）と生育は平年をやや下回っており、前回同様に㎡茎数は圃場間差が目立った。３回目（６月28日）の調査で、草丈40.0㎝（平年比102％）、葉齢9.2葉（同＋0.5葉）、ＳＰＡＤ値42.7（同

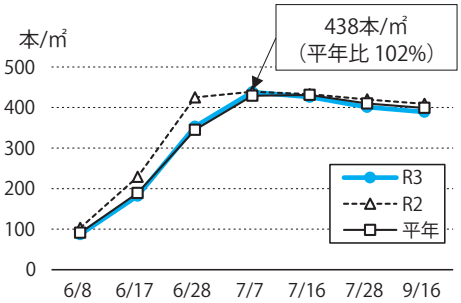
97％）、茎数353本/㎡（同102％）と生育量が平年を上回り、葉齢から見た生育は「２日程度早まる」となった。これは６月中旬からの気温上昇と土壌窒素の発現も高まったことで第９、10葉の出葉が早まり、１次分げつに加え２次分げつの発生が旺盛であったことが茎数の増加にも繋がったと予想される。本年は３号１次分げつの発生にムラがあったことで９葉期での茎数が確保出来ず、中干し開始時期を遅らせた圃場が目立った。

最高分げつ期にあたる４回目（７月７日）の調査では、草丈52.8㎝（平年比99％）、葉齢10.5葉（同＋0.4葉）、ＳＰＡＤ値44.2（同99％）、茎数438本/㎡（同102％）と葉齢と茎数は平年を上回り、平年より２日程度早い生育であった。

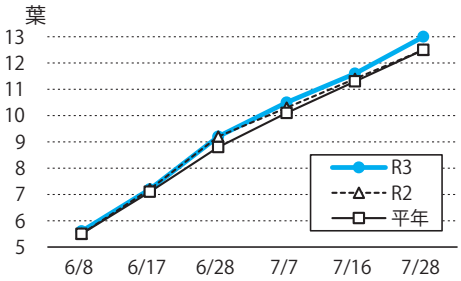
図－2 草丈・稈長（あきたこまち）



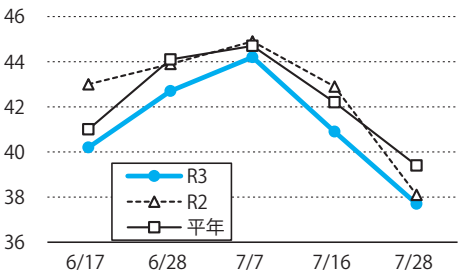

図－3 茎数・穂数（あきたこまち）




図－4 葉数（あきたこまち）




図－5 ＳＰＡＤ値（あきたこまち）




## （４）幼穂形成期～出穂期

幼穂長から推測した本年の「あきたこまち」の幼穂形成期は平年より５日程度早い７月10日頃であった。６月中旬以降に気温が高く推移したことで葉齢の展開が早まり、幼穂形成が進んだと思われる。幼穂形成期に当たる５回目の調査（７月16日）では草丈68.9㎝（平年比103％）、茎数426本/㎡（同99％）、葉数11.6葉（同＋0.3葉）、葉色値40.9（同97％）と「草丈やや長め、幼穂長から見た生育は３日程度早め」の状態であった。幼穂形成期の栄養診断では理想値の範囲に入る圃場も多かったが、土壌窒素が早めに消失し葉色が淡い圃場も多く見られた。６回目の調査（７月28日）では草丈85.8㎝（平年比108％）、茎数401本/㎡（同98％）、葉数13.0葉（同＋0.5葉）、葉色値37.7（同96％）と「草丈長く、葉色淡め」であった。減数分裂期から出穂前の稲体は、７月の高温で窒素吸収が旺盛となり第11葉と12葉の葉身が平年に比べ５㎝程度長く、倒伏が懸念される様相であった。また、本年は増葉茎が散見され、幼穂の伸長もバラつきが目立ったが、「あきたこまち」の平均出穂日は７月31日と平年比で５日程度早まった。

## （５）登熟期

早生品種は７月27日（平年比３日早い）、晩生品種は８月４日（平年比５日早い）の出穂であった。本年の登熟前半の天候は高温での出穂となり、出穂後も早生品種が約２週間、「あきたこまち」は10日間程度28℃前後の高温で推移し、その後８月９日～19日は低温・寡照となったが、「あきたこまち」を含む早生品種は高温登熟の影響が懸念された。登熟後半は平年並みに推移したが、８月31日～９月８日にも低温が続き登熟はやや鈍化した。

刈取り開始は、出穂が早かったものの、登熟期間中にまとまった降雨が数回あったことで根域が保たれ、葉茎や弱勢茎籾の黄化が登熟終盤の低温で緩慢となり平年並みとなった。

早生品種で出穂が７月25日前頃と早まった一部の圃場では胴割れがやや目立った。これは、出穂後に約２週間高温が続いたことで光合成の能力が低下し、玄米への糖の転流が不十分となったことが要因と考えられる。「あきたこまち」においても、出穂後の高温の影響で白未熟粒等の割合が平年より目立った。

晩生品種では白未熟粒や青未熟粒の割合が高まった他、胴割れ粒は少なかったものの糯品種では刈遅れによる軽度の茶米も目立った。登熟前半の高温や９月８日の強風による上位葉の葉先枯れ等が影響したものと思われるが、登熟が早い強勢茎籾と遅い弱勢茎籾とで登熟速度に差があり、弱勢茎籾の成熟に合わせて刈取りしたところ、結果的に茶米の割合が目立ったと考えられる。また、出穂後に籾の中に糸状菌が入り込むことで発生が見られる「褐色米」も本年は一部で目立った。（９ページの《参考》を参照）

令和３年度　水稲の生育状況と作柄を振り返る

## ３　病害虫発生状況

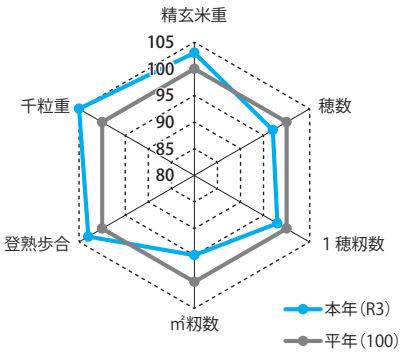
| | |
|---|---|
| (1) い も ち 病 | ７～８月上旬に好天日が多く葉いもち、穂いもちとも発生が少なかった。 |
| (2) 稲こうじ病 | 幼穂形成期～出穂期にかけて好天日が多く早生品種、晩生品種ともに発生が少なかった。 |
| (3) 紋　枯　病 | ７～８月上旬が高温であったが少雨で推移したことと、８月中旬以降気温が平年並み～低めで推移したため発生が少なかった。 |
| (4) 斑点米カメムシ類 | 本年は「アカヒゲホソミドリカスミカメ」「アカスジカスミカメ」ともに８月上～中旬の発生量が多く、未防除圃場や防除の遅れた圃場では発生が目立った。 |

## ４　作柄状況（収量・品質）

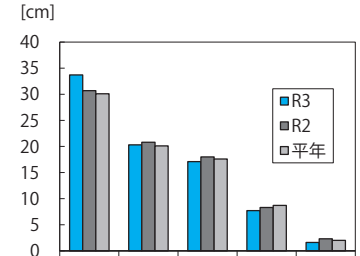
表－1 定点調査区13地点の収量調査結果

| あきたこまち（生育調査13地点平均） | 精玄米重（kg/10a） | 穂数（本/㎡） | 1穂籾数（粒/穂） | ㎡籾数（千粒/㎡） | 登熟歩合（%） | 千粒重（g） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 598 | 389 | 81.9 | 31.9 | 90.7 | 22.3 |
| 平年比%（H21～R2） | 103 | 97 | 98 | 95 | 103 | 105 |
| 前年比% | 97 | 95 | 95 | 91 | 97 | 103 |

R３年 収量構成要素（あきたこまち平均）




R３年 節間長（あきたこまち）




| | 第1 | 第2 | 第3 | 第4 | 第5 |
|---|---|---|---|---|---|
| R3 | 33.7 | 20.3 | 17.1 | 7.7 | 1.6 |
| R2 | 30.7 | 20.8 | 18.0 | 8.3 | 2.3 |
| 平年 | 30.1 | 20.1 | 17.6 | 8.7 | 2.0 |

「あきたこまち」収量構成要素では穂数が389本/㎡（平年比97％）で少なめ、１穂籾数も平年比98％とやや少なめで、㎡当籾数は約31.9千粒と平年（同比95％）を下回ったが、千粒重（篩い目：1.85㎜）が22.3ｇ（同比105％）、登熟歩合が90.7％と平年(103％）を上回り、籾数不足を補ったことで収量は平年をやや上回った。

## ５　大潟村予想収穫量（主要品種の作柄調査結果）

＜作況については、農林水産統計とは別に営農支援課で地区別・品種別に約60点を調査した結果＞

**全体の平均単収は653kg、作況指数は101の「平年並み」となった。**
［昨年は大潟村：662kg、作況指数104］

**品種別では、あきたこまち：614kg**
**たつこもち　：675kg**
**きぬのはだ　：714kg**

品質については、早生品種、晩生品種ともに着色粒、白未熟粒、被害粒等の割合が高く整粒割合は平年をやや下回る傾向であった。

当ＪＡ検査実績での「あきたこまち」の等級比率は11月現在で、１等米比率が約98％となっている。

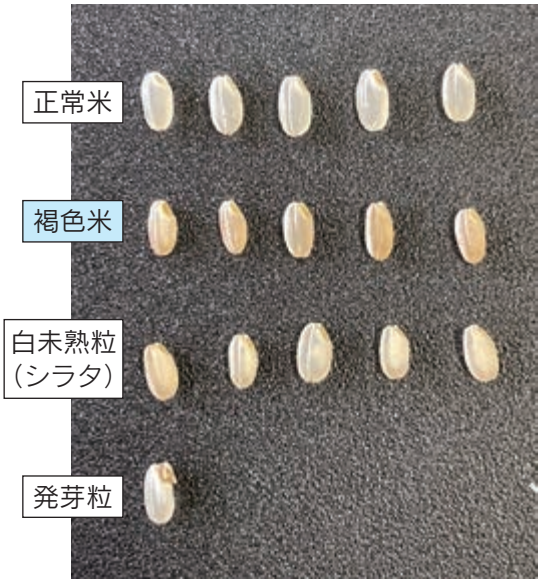
※平年単収は過去５年間の最高と最低を除く平均値　**644kg**

| | |
|---|---|
| 平成28年 | 659kg |
| 平成29年 | 647kg |
| 平成30年 | 561kg |
| 令和元年 | 625kg |
| 令和２年 | 662kg |

## 令和３年度 水稲の生育状況と作柄を振り返る

### 参考 褐色米

農産物検査では「茶米」として分類され、籾内部で糸状菌が繁殖し玄米が褐変する。




#### 症　状

玄米の色は軽症粒が飴色、重症粒が黒褐色となる。重症化した籾の表面は成熟期に褐色の斑点や斑紋が発生し、籾全体が褐色となる。

#### 発生生態

畦畔のメヒシバ等のイネ科雑草が枯死腐敗する際に菌糸が繁殖し、稲の開花時期に籾の内部へ胞子が入り込むと籾内部で菌糸が増殖する。28℃前後の高温条件になると、出穂後4週目頃から茶褐色が濃くなり重症化するリスクが高まる。

#### 防　除

日照が少ない曇雨天が続くことで枯死した雑草に菌が繁殖しやすくなり、稲が窒素過多の場合、細胞が軟弱で侵入後の菌に対して抵抗力が弱く菌糸の増幅を助長するため、基肥や特に追肥の窒素量には注意する。また、出穂直前に畦畔の草刈りを行うと開花期と胞子飛散のタイミングが重なるため、草刈りは出穂前後とも10日程度間隔をあけることも耕種的には重要と思われる。胞子飛散源が主に畦畔雑草のため、畦畔沿い数条に褐変籾が目立つ場合はブラシン剤で防除する。

---

**大潟村フレッシュミズ・JA大潟村フレッシュミズ創立40周年特別企画**

励ましの詩画家
# 佐々木ひでお 口筆魂展

## 令和4年2月9日(水)～13日(日)

**10時－15時**　**会　場** あぐりプラザおおがた

※初日９日は
13時OPEN
最終日13日は
12時CLOSE

**入場料** 無　料

～見て 感じて 感動して～

主催／佐々木ひでお口筆詩画応援志隊
（代表 高橋　悦子）

後援／大潟村フレッシュミズ・ＪＡ大潟村フレッシュミズ（事務局 藤田　和代）、あぐりプラザおおがた

**【励ましの詩画家 佐々木秀雄】プロフィール**

昭和24年生まれ。72歳。秋田県由利本荘市出身。
秋田県井川町障害者支援施設「桐ヶ丘」在住。
昭和49年、25歳の時に交通事故で頚髄損傷。以来、肩から下が不随になり、車椅子生活となる。
平成２年、桐ヶ丘絵画クラブに入り、口に加えた絵筆で詩画を始める。爾来31年間、秋田県内の行事や草花などを描き、県内外で展示会を開催し、多くの人に感動と勇気を与えている。

# あぐりプラザ トクトク情報

## ★金曜市開催予定日

**1月14日㈮・1月21日㈮**

## ★特売開催予定日

**1月27日㈭・28日㈮の2日間**

## ★小学生のネギ販売が大好評！

大潟小学校6年生が学校菜園で育てて収穫したネギを、自分たちで根切りと皮むきも行い、12月15日にあぐりプラザで3本入り1袋100円で販売しました。用意した90袋はすぐに完売となりました。

「きれいで立派なネギだね」と
お客さんに大好評でした

お客さんの呼び込みも頑張りました

**営業時間** 午前9時～午後7時　お問い合わせは生活課（45－2214）まで。


JA葬祭レゼール「みどりの会」 入会のご案内

安心1 月々の積立金、年会費は一切不要!
**入会金10,000円(税込)のみで葬儀費用がお得に！**
毎月のご負担がかからないように掛金は不要です。

安心2 **1回のご入会で1家族が「生涯会員」です。**
ご家族であればどなた様でも、ご利用いただけます。

安心3 **即日入会可能**
入会後すぐに会員割引が受けられます。※事前入会が原則です。

安心4 **JA葬祭は全県ネットワークです。**
県内のJA葬祭会社それぞれの会員割引特典が受けられます。

虹のホール
**レゼール男鹿**
〒010-0341
男鹿市船越字内子104-1
TEL：0185-35-4949

虹のホール
**レゼール湖東**
〒018-1516
南秋田郡井川町浜井川字
杉ノ実170-1
TEL：018-855-6333

ご葬儀のことなら、どんなことでもお気軽にご相談ください！ どなた様でもご利用いただけます。

お申込み・お問い合わせ JA葬祭レゼール 0120-46-5731

# 女性部活動だより

第450号

## ☆これからの行事予定

◎１月18日　リフレッシュ講座（スローエアロビクス）
　　午前10時～　ＪＡ会館大会議室
◎１月下旬　ＪＡ役職員との懇談会・女性部座談会
◎２月上旬　料理講習会「毎日のおそうざい」
◎２月15日　リフレッシュ講座（健康体操）
　　午前10時～　ＪＡ会館大会議室
◎３月１日（予定）　総会

## ■加工部より―委託味噌受け付け中―

申し込みを出し忘れた方、まだ間に合います。
忙しくて自分で作られない方、体力が心配で作られない方、委託受け付けます。
申込は生活課・谷さん（45－2214）に、１月11日（火）までにお願いします。　（加工部・石山裕子記）

## ■有機野菜栽培講習会のお知らせ

有機栽培について知りたいことなどがあったら、この機会に参加してみませんか？ＪＡ女性部と大潟村有機農業推進協議会の共催ですので、どなたでも参加できます。

**日　時**　１月21日　午後１時30分から３時30分まで
**場　所**　ＪＡ会館　２階　和室
**講　師**　豊川　　茂 氏（秋田農場代表）

（野菜栽培活動グループ・栢森慶子記）

## ■活動報告と各種会議報告

### ◎エコレク部活動報告

11月29日、村民センター東２丁目分館にて、不用品衣類を回収しました。総重量616.4kg、64名のご協力がありました。
回収された衣類は業者に持ち込まれ、ウエスとしてリサイクルされます。
燃やせるごみの減量化とリサイクルの推進に、わずかでもお手伝いできました。ご協力ありがとうございました。

（遠藤順子記）

### ◎女性部研修（12月７日）

出席者27名で、干拓博物館で行われました。
船木信一館長の講演は、野鳥が専門で、フリと酒が好きだということで私たちを笑わせることから始まりました。

船木館長操縦のドローンで撮影した参加者の皆さん

コロナで米も安くなり、私の不安もいっぱいでしたが、その中で「生き物と大潟村ブランド」という話をしていただきました。大潟村の自然は世界レベルで良いということや、田んぼにいる小動物がみんな悪いわけではないこと、珍しいハクガン（ガンの一種）の越冬地で全国から人が見に来ていることなど、うれしい報告でした。そして、これからの農業は大潟村ならではの作物や米、ドローンなどのハイテク機で変わっていけるということで、ドローンを実際に飛ばして見せてくれました。
また、一番心に残ったのは、害虫であるカメムシを食べる生物のベスト10の紹介でした。第一位がもずという野鳥だと知り、みんなびっくりしていました。
休憩時間には西馬音内盆踊りを踊ってみせていただき、とても親しみやすい館長さんでした。有意義な時間を過ごし、お土産をいただき、満足の講演でした。　（石川千春記）

### ◎豆腐作り講習会（12月８日）

加工センターで豆腐作り講習会があり、豆腐と、9日の油揚げ作り用の豆腐を作り水切りしました。
講習会を始める前に、以下の４つの大事な注意がありました。

①ガスの元栓を開ける前に、縦に並んだガス栓が全部閉まっているのを確認してから元栓を開けて点火して下さい。
②鍋はきれいに洗ってありますが、念のため水を回し掛けてから使用して下さい。
③煮た豆を絞る機械を洗う時は、故障の原因になるので、歯車等がある上の部分には水を掛けないで下さい。
④豆腐を作る人は事前に女性部担当の生活課・谷さんに連絡し、午後作った人は溝の蓋を上げて必ず掃除すること、午前作った人は午後作る人がいる場合は溝の蓋は上げないで水を流す程度で良いが、午後作る人がいない場合は蓋を上げて掃除してください。
注意事項が多いですが、安全と節水に気をつけて作業しましょう。　（小澤美智子記）

### ◎油揚げ講習会（12月９日）

女性部さん、ＪＡの谷さん、地域おこし協力隊の明平さん、フレッシュミズの計16名で行われました。材料は、女性部さんが丹精込めて育てた有機栽培の大豆で作ったお豆腐、米油です。
油鍋で、始めは低温でじーっくり揚げ（この時、丁寧に何度も何度もひっくり返します！）膨らんできたら高温で良い色になるまで揚げます。最初は仕上がりがふっくらせずに苦戦しましたが、何度もやっているうちにふわふわ大きい油揚げを作る事が出来ました。
女性部の皆さんは優しく丁寧に教えて下さり「手をかけて愛情込めて作るのよ～」という言葉が印象的でした。お土産は作った油揚げとお豆腐！
帰宅後、子どもたちと油揚げを作り、スライスした豆腐からだんだんと膨らんで油揚げに変わっていく様子を楽しみました。油揚げは家族みんなで美味しくいただきました♡
安心・安全、そして愛情こもった一品にシンプルながら贅沢だなとしみじみ感じながら味わいました。
講師の石山さん、女性部の皆さん、ありがとうございました！

（フレッシュミズ・本庄ゆかり記）

### ◎ゆずり葉が「地域の茶の間」を開催しました

11月30日、大潟村ふれあい健康館で開催し、東・北住区の25人が参加しました。

齊藤明裕先生によるいすに座った体操

※このコーナーは隔月で掲載致します。

# コメ記者 熊野のコラム

## 第19回
## 「今どうなっているの？お米の状況⑲」

熊野（くまの） 孝文（たかふみ）　1954年鹿児島県生まれ。コメ記者として30年以上にわたりコメの流通現場を中心に取材。

早いもので令和も４年目を迎えました。

令和２年１月10日の米穀業者の新年会で、前日に中国から帰国したばかりの業者が「東京オリンピックは開催出来なくなるだろう」と言ったことに「まさか」と思ったものですが、結局２年以上もコロナ禍に振り回されるとは思ってもいませんでした。

コロナ禍が与えた影響は計り知れず、コメ業界も例外ではありません。特に需要面では休校になった際の学校給食向けのコメの納入停止に始まり、緊急事態宣言下での飲食業者の休業や時短で、いわゆる業務用米を納入している業者に与えた影響も大きく、知り合いの米穀小売店の中にも事業継続のために支援を受けたところが少なくありませんでした。

国は「コロナ禍によるコメの需要減」を名目に２年産米を15万㌧隔離する「特別枠対策」を実施することにしました。こうした対策も必要だったかもしれませんが、私がそれ以上に危機感を抱いたのは、農水省が11月19日の食糧部会で示した４年産米の適正生産量です。なんと３年産米より21万㌧減の675万㌧と言う数字を示しました。

21万㌧とはちょうど青森県で生産される数量で、農水省はこれだけの数量を減らさないとコメの需給が改善せず、価格が上がらないという見立てで示したのですが、果たして価格を上げるために生産量を少なくするというコメ政策が正しいのでしょうか？こうしたことを繰り返しているとコメは市場から消えてしまいます。

なぜ日本にこれほどまでに水田が広まったのでしょう？水稲は日本の国土に最も適し、かつ連作障害もない作物だからではないでしょうか。流行の言葉で言えばＳＤＧｓ、持続可能な生産物であるからコメを作り続けてきたのに、それを減らし続けることには危機感を感じています。

皆さんも大変だという認識を持たれていると思いますが、肥料等のあらゆる資材が高騰し、入手するのが困難になっているものもあります。穀物は、原油の値上がりと連動して価格が上昇します。つまり、原油が値上がりすると資材だけでなく世界中の穀物の価格も上昇するという事です。それに加え日本の国力の衰えから円安が加速し、海外からの輸入物資は軒並み値上がりしています。つまり、これまでのように「安いものは海外から買えばよい」という考え方が通用しない時代が来るのではないでしょうか。

それと皆さんご存知のように現在の農家の平均年齢は68才ですので、これから大量離農の時代を迎えます。秋田県でも2025年に今の水田面積を維持しようと思えば１戸平均40㌶耕作しないといけないと予測されています。実際、昨年末に三重県のコメ集荷業者から、所在する町では田植えする生産者がいなくなるので、自ら主導して町と協力しドローンによる直播栽培に取り組みたいという相談がありました。私はその業者をドローンによる直播を実践している茨城県の大規模稲作生産者に案内し、新しい直播栽培方法を開発した生産者らと勉強会を開催しました。この業者は長年コメの集荷業を営んでおり、これまでコメの生産事業はやっていませんでしたが、自ら生産しなければ自らの業も成り立たないという事で、自治体の全面的な協力のもと耕作会社を設立すると言っていました。こんな大きな変化が起きていることにビックリしましたが、こうしたことはこれから全国のあちこちで起きるでしょう。

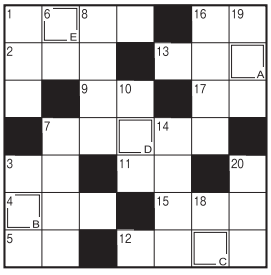
以前、ＪＡ大潟村の前組合長から幾度となく「村のコミュニティが大事」だと聞かされましたが、現在のような状況を迎えて初めてその言葉の意味が分かったような気がします。コメ生産のためにスマート農業も大事なことでしょうが、全国各地でコミュニティが崩壊しつつあり、コミュニティが崩壊して作る人がいなくなったらスマート農業以前の問題になってしまいます。コミュニティが成り立ち持続可能な農業が出来るようにするためには我が国の国土に最も適した作物であるコメ作りをこれ以上減らすべきではないのではないでしょうか。

今日ほど地産地消の本来の意味を問い直すことが重要なときはありません。これもコロナ禍が教えてくれたことではないかと思います。　＜つづく＞

# 頭の体操！

**正解者の中から抽選で**
**3名様に粗品をプレゼント！**
（プレゼントをご本人かおうちの人が、直接ＪＡまで取りに来ていただける方限定）
**何が当たるかはおたのしみ！**

Q 二重マスの文字をＡ～Ｅの順に並べてできる言葉は何でしょうか？
出題●ニコリ



**応募方法（大人の方も、お子さんも、年齢問わず応募できます）**

①パズルの答え、②お名前、③ペンネーム（ペンネームでの掲載を希望の方）、④住所、⑤電話番号、⑥年齢、⑦ＪＡだよりまたはＪＡホームページへの応援メッセージを簡単にご記入の上、おはがきかＦＡＸでご応募ください。

**応募締切**　令和４年１月17日（月）必着
**応 募 先**　〒010－0443　大潟村中央１－５　ＪＡ大潟村広報担当
ＦＡＸ：0185－45－2273
**発　　表**　当選者は２月号で発表するとともに、当選者ご本人に電話でお知らせいたします。

※皆様からいただいた個人情報については、厳重に管理するとともに、当選者発表、当選者への連絡以外の目的では使用いたしません。

●先月号の答え／プレゼント　　先月号の当選者／ＰＮ うさぎさん

## ヨコのカギ

1　1月の第２月曜日は――の日。国民の祝日です
2　旅支度で、旅行かばんに――を詰めた
3　下手な鉄砲も――撃ちゃ当たる
4　北海道東部の市。自然豊かな湿原が有名です
5　水が混じって軟らかくなった土
7　これが三つで三振
9　土を盛り上げて作ります
11　植物の葉や車の窓などに氷の結晶が付いたもの
12　「住めば都」とか「猫に小判」とか
13　果物――を使ってリンゴをむいた
15　遠回りをすること
16　初夢で見ると縁起が良いといわれる鳥
17　やっぱり自分の――が一番落ち着くなあ

## タテのカギ

1　オイルショックともいわれる――危機
3　分度器で測ります
6　栗の実のトゲトゲ
7　春の七草の一つ。ダイコンのことです
8　遊園地で――コースターに乗った
10　おでんに添える黄色い薬味
14　年下の女きょうだいのこと
16　屋外で行うことも多い教科
18　ミカンのものは手でむけます
19　おしゃれな――でランチを楽しんだ
20　「オリオン」「おおいぬ」「カシオペア」といえば

# 組合員の皆様へ　自営口座（総合口座等）システム移行関連掲示板

●普通貯金（営農）通帳の引取りについて（お願い）

令和３年７月に口座開設していただきました、普通貯金（営農）の通帳をお渡ししておりますので、お手数ではございますが下記の日時にお受け取りくださいますようお願いいたします。

**引渡日**：令和４年１月６日(木)～14日(金)（８日～10日は休み）
**時　間**：午前９時～12時、午後１時～３時
**場　所**：ＪＡ会館１階　談話室

◆お問い合わせは　金融課　45－3018

# ◆年金無料相談会のご案内◆

ＪＡでは、年金についての無料個別相談会を下記日程で開催いたします。当日は年金専門の社会保険労務士が年金に関するご質問にお答え致しますので、ぜひこの機会にお気軽にご相談ください。なお、待ち時間短縮のため、事前予約制とさせていただきます。

**日　時**：２月３日（木）午前９時～午後２時
**場　所**：ＪＡ会館２階小会議室
**対　象**：年金受給開始を目前に控えている方や、現在お受け取りの年金に疑問をお持ちの方
**持　物**：年金請求書・年金定期便・証書・認印・基礎年金番号通知書　など

★お申し込み・お問い合わせは金融課（45－3018または2211）まで。

# 職 員 人 事

**異動**　職員の人事異動を行いましたのでお知らせいたします。

**12月13日付**

| 氏　名 | 新　任 | 旧　任 |
|---|---|---|
| 加藤　伸正 | 給油所給油所係 | 営農支援課販売係 |

**１月１日付**

| 氏　名 | 新　任 | 旧　任 |
|---|---|---|
| 斉藤　春彦 | 営農支援課課長（加工係係長兼務） | 営農支援課課長補佐 |
| 藤原　行毅 | 営農支援課営農指導係 | 営農支援課課長（加工係係長兼務） |
| 山田　正則 | 整備課農機　農機整備係 | 整備課自動車　自動車整備係 |

**退職**　**12月31日付**　**伊東　寛紀**（営農支援課営農指導係）
お疲れ様でした。

**五城目警察署からのおしらせ**

# 正しい110番の利用

## 110番は事件・事故の緊急通報用です

### 1　110番のしくみ

110番は、県内どこからかけてもすべて秋田市にある警察本部（通信指令室）に接続され、受理します。警察本部（通信指令室）で受理した通報内容は、各警察署などに無線で指令され、近くにいるパトカーや警察官が現場に急行するしくみになっています。

事件・事故のほか、不審者、各種事件情報などについても、積極的な110番通報をお願いします。

### 2　110番の正しい利用

(1)　110番通報の要領

担当者が順を追ってお聴きしますので、落ち着いて質問に答えてください。

◆何があったのか（交通事故、泥棒、けんかなど）
◆いつあったのか（何分くらい前、何時ころなど）
◆場所はどこか（市町村名から）
◆犯人は（人相、服装、人数、車のナンバー、逃げた方向など）
◆事件・事故の状況は（けが人の有無）
◆あなたの住所、氏名、電話番号、事件との関係

(2)　110番になじまないもの

◆各種相談、案内、行事、事件等の問い合わせ
◆運転免許に関する問い合わせ
◆警察署、交番などの電話番号等の照会

※いたずら・無応答・間違いや、110番通報になじまない各種照会・相談・要望など緊急性の低い110番が、全体の３割以上を占めています。
※警察総合相談室は、専門の相談員が相談を受けたり、各種照会の担当窓口を案内します（電話は「＃9110」でつながります）。

五城目警察署　TEL 018－852－4100
大潟駐在所　TEL 0185－45－2100

※「ＪＡの概況」は休みます。「理事会報告」は２月号に掲載します。

インターネットアドレス https://www.ja-ogata.or.jp/
組合長ブログ https://jaogata.exblog.jp/

〒010-0443 秋田県南秋田郡大潟村字中央1丁目5
TEL 0185-45-2211(代) FAX 0185-45-2273
発行／大潟村農業協同組合　印刷：㈱八郎潟印刷

# お誕生日おめでとう!!

No.261

**齊藤　芽菜（めいな）ちゃん**

２人のお姉ちゃんが大好きな芽チャン♡いつも、たくさん遊んでもらっています♪
お話しも上手になってきました☆これからも３姉妹、元気に成長してね♡

**埴生　桐矢（とうや）ちゃん**

歌を聴いたり、声で遊ぶことがすきだよ。実家の猫に片想い中。よく食べ、よく眠る親孝行ボーイです（今のところね）。

このコーナーに掲載希望の方はご連絡お待ちしております。TEL 45－2211　広報担当

## フレミズだより

### ●活動報告

12月７日　料理講習会＆お茶会
12月９日　女性部油揚げ講習会

女性部油揚げ講習会に参加しました

### ●活動予定

１月18日　豆腐作り講習会

**２月10日　第40回定例総会、創立40周年記念式典、記念講演、祝賀会**

**記念講演「美活トーク術**
**～明るく若々しく過ごすために～」**

**フリーアナウンサー　石川　文子 氏**

11時（１時間）ＪＡ会館大会議室

・どなたでもご参加出来ます。
・お席に限りがございますが、皆様お誘いあわせの上、お気軽にお越し下さい。

併せまして、特別企画展も開催致します。

**励ましの詩画家　佐々木ひでお「口筆魂展」**

詳細は９ページをご覧ください

## 青年部 活動報告と予定

随時部員を募集していますので、興味のある方はぜひＪＡ大潟村営農支援課（TEL：45-3033）までご連絡ください！

### ●活動報告

11月22日・12月１日・12月15日　農業人材育成研修
11月26日　ＪＡ大会参加
12月２日　ＪＡ青年大会参加
12月８日　忘年会

### ●活動予定

新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら検討中です。